

# 国語

(地理歴史・公民、数学は別冊子(R)になります)

## 令和六年度入学試験問題

### 受験上の注意

- 一、監督の指示により解答用紙に受験番号(算用数字)、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
- 二、問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
- 三、国語の問題は、二～十六ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。
- 四、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
- 五、質問、その他用件があるときは、手を挙げて合図してください。
- 六、試験時間中の退場は認めません。
- 七、試験時間は国語と地理歴史・公民、または国語と数学で八十分です。
- 八、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

一 「本文Ⅰ」「本文Ⅱ」「本文Ⅲ」を読み、後の問に答えなさい。

〔本文Ⅰ〕

幸福の性質について古くから唱えられてきた最も単純明快な考え方は快樂説です。まさにその単純明快さのために、この説を最初に検討するのがよいでしょう。

快樂説は「すべての快樂が、そしてそれだけが、本人にとっての善である。またすべての苦痛が、そしてそれだけが、本人にとっての悪である」という主張として理解できます。快樂説によると、人がどれだけ幸福であるかは、その人がどれだけ快樂（もつと正確には、快樂引く苦痛）を経験しているかで決まることになります。快樂と苦痛以外のあらゆる事物・状態が個人にとって価値を持つのは、それらが快樂と苦痛をもたらすからに他なりません。

（中略）

快樂説の魅力は何よりも、一見してとても説得力があるということです。病気やけがが苦痛を与えるために悪いということ、食べ物のおいしさや大願成就の歓喜などさまざまな感覚的・心理的な喜びが善いということ——これは誰でも賛成できる判断であつて、よほどひねくれた人でもなければあえて否定しないでしよう。むしろ快樂の中には将来有害な影響をもたらすものがありますし（たとえば喫煙の快樂）、ある種の苦痛は生活にとつて必要悪と言えますが（たとえば人は苦痛がなければ身体や健康の異常になかなか気づかないかもしれません）<sup>①</sup>、それらの快樂や苦痛も、それがもたらす影響とは独立に快樂あるいは苦痛それ自体として見れば、幸福を増大あるいは減少させていると考えられます。

さらに快樂説によると、本人の幸福に対するそれらの影響も、最終的には快樂と苦痛だけによつて評価されます。幸福は結局のところ快樂と苦痛だけに依存しているということです。このことは、「個々人にとって内在的な価値（それ自体としての価値）があるものは、自分の快樂だけだ」と表現することもできます。

（森村進『幸福とは何か』筑摩書房 問題作成上、一部を改変した）

〔本文Ⅱ〕

快樂説に対して、「どのような快樂でも幸福に結びつくわけではない」という反論があります。より幸福につながる快樂もあれば、幸福という観点からはあまり価値のない快樂もあるでしょう。次の例を考えてみましょう。

A

この場合、快樂ならば何でもよいわけではなく、幸福という観点からは価値の大きい快樂もあれば価値の小さい快樂もあるという主張には説得力があるでしょう。そうだとすれば、快樂説は幸福の説明としては不十分な説だということになります。

B、快樂説もこの反論をただちに受け入れるわけではありません。快樂説は、どんな快樂であれ幸福をもたらし、また快樂だけが幸福をもたらすのだと考えます。

C

、快樂に低級も高級もありはしないのです。その代わり、快樂にもより大きな快樂とより小さな快樂があります。「低級な快樂」と呼ばれるものは、長い目で見れば小さい快樂しかもたらさず、「高級な快樂」と呼ばれるものは、人生全体で考えるならばより大きい快樂をもたらすものなのです。そして快樂が幸福をもたらすのですから、人はより大きな快樂を求めるべきなのです。

(本試験のための書き下ろし)

〔本文Ⅲ〕

快樂説に対する重要な反論の一種は「偽りの快樂」という觀念に訴えかけます。この議論はプラトンの対話篇『ピレボス』<sup>(2)</sup>に出ています。「偽りの快樂」とは、「快樂のように思われるが実際は快樂でないもの」という意味ではなくて、「虚偽の信念に基づく快樂」という意味です。このタイプの議論によれば、誤った信念が悪しき信念であるのと同じように、誤った信念に基づく快樂も悪しき快樂です。このようにして、「快樂が善いものか悪いものかは、何がその快樂をもたらすかによって決まるのであって、快樂それ自体に内在的な価値はない」というのがこの議論の結論になります。<sup>(3)</sup>

(中略)

しかしこの批判に対して快樂説を取る人は、「D」と反論することができます。——その人を不幸だと判断して軽蔑したり憐れんだりしている人たちは、当然当事者本人ではなく、その信念や世界観を共有しているわけではない。彼らがどのように考えているにせよ、それはいわば部外者の無意味な判断にすぎない。当人の幸福にとって重要なことは、その人自身がどう感じているかであって、当人の知るよしもない事情ではない——。快樂説論者はそう主張するかもしれません。

（森村進『幸福とは何か』筑摩書房 問題作成上、一部を改変した）

問一 傍線部分(1)「それらの快樂や苦痛も、それがもたらす影響とは独立に快樂あるいは苦痛それ自体として見れば、幸福を増

大あるいは減少させていると考えられます」が言わんとする内容と合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 1。

- ① たとえ苦痛を感じたとしても、その苦痛が必要悪であるならば、それは幸福に資するものと言える
- ② 厳しい練習が苦痛であるとしても、それを乗り越えて試合に勝った喜びが苦痛をしのぐものであるならば、全体として幸福であると言える
- ③ 喫煙が健康に悪い影響を与えても、喫煙を快いと感じる人は喫煙によって幸福であると言える
- ④ そのときの快樂が大きな幸福をもたらすならば、将来の影響については無視することができる
- ⑤ 快樂が増大させた幸福の量から苦痛が減少させた幸福の量を引いた結果がプラスならば、幸福と言える

問二 空欄Aに入る事例として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 2。

- ① Nさんは山登りを趣味としている。そして、山頂でカップラーメンを食べることを何よりも楽しみにしている。しかし、家で同じものを食べても山頂で食べるときほどおいしくない。同じカップラーメンでも、山頂だからこそ価値があるのだ。
- ② Nさんは趣味でカント哲学を学んでいる。また、ギャンブルの趣味もある。Nさん自身はギャンブルにふけるよりもカントの著作を読む方が高級な趣味だと思っているが、ついカントの著作を読まずに、ギャンブルをしてしまう。ギャンブルによつて快楽を得られても、カントの著作を読まなかったことで、Nさんはいつも後ろめたい気持ちになる。
- ③ Nさんは誕生日に時計をプレゼントされた。調べてみたら、それは思ったよりも高級な時計だった。そのため、Nさんはいつそううれしくなった。時計そのものに対する喜びだけでなく、高級ブランドであることによる付加価値が喜びを増大させたのだ。
- ④ Nさんは、苦勞すればするほど仕事をやり遂げたときの喜びは大きいと考えている。だから、仕事に向かうときにはむしろ苦勞が大きい方を選ぶ。もちろん苦勞が実を結ばないこともあるが、それはそれで精一杯がんばったという心地よさを感じることもできるのだ。
- ⑤ Nさんとはとにかく快楽を求めてやまないタイプだ。美食家であり、スイーツにも目がなない。しかし、そんな生活がたつたて糖尿病になってしまった。さすがのNさんも高カロリーの食べ物や甘いものを控えるようにした。いつときの食事の快楽より、糖尿病を悪化させることの苦痛の方が大きいと考えたからだ。

問三 空欄B、Cに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 3。

- ① B しかも C なので
- ② B ただし C しかし
- ③ B したがって C だからといって
- ④ B とはいえ C ですから
- ⑤ B すなわち C さもなければ

問四 「本文Ⅱ」で述べられている快樂説からの再反論に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。

解答番号は 4。

- ① 客観的に見てどれほど低級な快樂であろうと、快樂に変わりはない。本人がそれに対して大きな快樂を感じているならば、本人にとってそれが幸福なのだ
- ② 低級な快樂とされるものは長期的に見れば小さな快樂にすぎない。それに対して高級な快樂とされるものは長期的に見れば大きな快樂をもたらす。問題は快樂の質ではなく、あくまでも快樂の量なのだ
- ③ 快樂に低級も高級もありはしない。それはたんに社会的な決めつけにすぎない。人はそんな周りの評価を気にせず、自分の幸福を追求すべきなのだ
- ④ しばしば低級な快樂の方が高級な快樂よりも大きな快樂となる。その場合には、幸福になるためにはより大きな快樂をもたらす低級な快樂の方を選ぶべきなのだ
- ⑤ 快樂にはより大きな快樂とより小さな快樂がある。そして快樂だけが幸福をもたらすのだから、人はより大きな快樂を求めべきなのだ

問五 傍線部分(2)「偽りの快樂」の事例として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5。

① Nさんはある有名画家の絵を手に入れ、有名画家の作品を持っているという虚栄心から大きな喜びを感じていた。しかし、実はそれは偽物だった。そのことを知らないNさんは、いまでもその絵を部屋に飾って満足している

② Nさんは甘いものが好きだが、甘ければ何でもおいしいと思うタイプだった。あるとき有名ケーキ店のケーキをもらったが、Nさんはそのケーキ店のことは知らず、ただ「甘くておいしい！」と大喜びして食べていた

③ Nさんはあるアイドルに夢中になり、そのアイドルを見ているときが何よりも幸せだった。だが、やがて恋人ができると、アイドルへの熱は急速に冷め、自分でもどうしてあのアイドルに夢中になったのか分からないと思うようになった

④ Nさんは恵まれた境遇にあり、仕事も成功して、周りからは幸福な人だと思われる。また、Nさん自身も自分は幸せだと口にしていた。しかし、Nさんは内心では本当にやりたかった夢をあきらめてしまったいまの自分に満足していなかった

⑤ Nさんは催眠術をかけられ、突然わけも分からず、いままで経験したことがないようなえも言われぬ快樂に包まれた。しかし催眠術が解けたとき、その快樂はまったく失われ、あのとときの快樂はたんなる錯覚だったのだと思った

問六 傍線部分(3)「快樂それ自体に内在的な価値はない」のように言われる理由は何か。最も適当なものを一つ選び、マークし

なさい。解答番号は 6。

① 誤った信念に基づく快樂でも快樂であることに違いはないから

② 同じ快樂でも、それを感じる人の価値観によって善し悪しが変わるから

③ 快樂があるかないかよりも、正しい信念に基づいて行動することに価値があるから

④ 快樂そのものに価値があるのではなく、それに価値があるという信念がだいじだから

⑤ 得られた快樂だけを取り上げても善い快樂なのか悪い快樂なのかは言えないから

問七 空欄Dに入る表現として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

- ① 自分の誤解に気づかない限り当人はやはり幸福なのだ
- ② 偽りの快楽は真の快楽ではないから幸福をもたらさないのだ
- ③ 偽りの快楽を感じている人もうそをついているわけではないのだから軽蔑すべきではない
- ④ たとえ周囲が軽蔑しようと、自分の信念に従って幸福を追求すべきだ
- ⑤ 正しい信念に基づく快楽だけが幸福をもたらすのだ

問八 快楽説の考え方に合致しないものを二つ選び、マークしなさい。解答番号は  (解答欄一行に二つマークすること)。

- ① 幸福とは快楽に他ならない。それゆえ、幸福になるためには、人はより善い快楽を求め、悪しき快楽を避けるべきだ
- ② 快楽が得られれば幸福であり、それがどんな快楽なのかということも、その快楽が何によってもたらされたのかということも、幸福には関係ない
- ③ 客観的に見てどれほど不幸だと思われようとも、本人が快楽を感じているならば、その人は幸せなのだ
- ④ 快楽は幸福をもたらす。快楽以外にも幸福をもたらすものはさまざまにあるが、幸福の基本は快楽にある
- ⑤ 巨万の富を持つが、どれほど才能に恵まれていようが、本人がそれに満足していなければ幸福ではない



二 次 の 文 章 を 読 み、 後 の 問 に 答 え な さ い。 な お、「 本 文 Ⅰ」「 本 文 Ⅱ」 に お け る「 表 層」 と は、 街 の 風 景 を 構 成 す る も の の う ち、 道 から 見 え る 諸 要 素 の 複 合 体 を 指 し て い る。

〔 本 文 Ⅰ 〕

住 宅 地 の 表 層 の タイ プ は、 道 の 軸 に 直 角 方 向 に 切 っ た 断 面 構 成 と、 道 に 沿 う 住 居 の 並 び 方 と い う 二 つ の 要 因 が 関 っ て い る。

ま ず、 表 層 の 断 面 構 成 から 見 る と、 道 から 離 れ 屋 敷 の 奥 深 く 主 屋 が 建 て ら れ る タイ プ も あ れ ば、 主 屋 が 道 に 沿 っ て 建 つ タイ プ も あ る。 し か し、 主 屋 と 道 と が 同 じ 距 離 に あ る 場 合 で も、 道 路 境 界 に 高 い 塀 が 建 て ら れ、 な か の 様 子 が う か が い 知 れ な い こ と も あ れ ば、 低 い 生 垣 や 金 網 で 仕 切 ら れ、 庭 で 遊 ぶ 子 供 の 姿 が 道 から 覗 け る こ と も あ り、 住 居 と 道 の 境 界 の 透 過 性 も 同 時 に 考 慮 に 入 れ な け れ ば な ら な い。 便 宜 上、 主 屋 の 道 側 の 壁 面 を 一 次 面、 住 居 の 道 路 境 界 が つ くり 出 す 面 を 二 次 面 と 呼 ぶ こ と に す れ ば、 一 次 面 と 二 次 面 の 距 離 と、 二 次 面 の 透 過 性 の 二 つ の 要 因 が、 表 層 の 性 格 決 定 に 大 き な 力 を も っ て い る と い う こ と に な る。 こ の 二 つ の 要 因 に つ い て、 そ れ ぞ れ 表 層 の 質 を 異 な ら し め る 節 を 見 出 す こ と が で き る。 一 次 面 と 二 次 面 の 距 離 に つ い て 言 え ば、 距 離 ゼ ロ、 即 ち、 主 屋 が 道 に 沿 っ て 並 ぶ タイ プ が 一 方 の 極 に な り、 他 方 の 極 に、 二 次 面 に 遮 ら れ て 一 次 面 が 見 え な い タイ プ が あ り、 そ の 中 間 に 両 者 が 同 時 に 見 え る タイ プ が く る。 二 次 面 の 透 過 性 に つ い て は、 一 方 の 極 に 向 う 側 が 全 く 見 え な い 壁 的 な タイ プ、 つ ま り 塀 が あ り、 他 方 に 住 居 と 道 の 境 界 の 存 在 を 暗 示 す る 標 識 的 な タイ プ（ 路 面 と 庭 の 仕 上 げ の 違 い と か、 縁 石、 低 い 垣 な ど） が あ り、 そ の 中 間 に 面 と し て は 感 じ ら れ る も の の 向 う 側 が 垣 間 見 え る、 格 子 の よ う な 半 透 過 性 の タイ プ が あ る。

二 つ の 要 因 は そ れ ぞ れ が 三 段 階 に 分 け ら れ る か ら 組 み 合 わ せ の 数 は 理 論 上 九（ 表 一） に な る の だ が、 こ の す べ て の タイ プ が 都 市 の 住 宅 地 の 表 層 に 実 際 に 見 出 せ る か は 別 問 題 で あ る。 そ こ で、 我 々 の 観 察 の 結 果 と 照 し 合 わ せ て ひ と つ ひ と つ を 検 討 し て み よ う。

二 次 面 が 壁 的 な 塀 と な り、 一 次 面 が 見 え な い タイ プ（ ア ） は い わ ゆ る「 お 屋 敷」 あ る い は、「 邸 宅」 の 表 層 で あ る。 塀 の 内 側 は 庭 園 に な る か ら 塀 越 し に 樹 木 が 見 ら れ、 と き に は 路 上 に ま で 覆 い か ぶ さ っ て い る。 そ の あ い ま に 主 屋 の 屋 根 が 見 え 隠 れ す る。 こ の 種 の 表 層 は 要 素 が 少 な く、 比 較 的 単 調 で、 賑 わ い は 少 な く、 夜 な ど は 家 から 漏 れ 出 る 光 も な く ひ つ そ り と 静 ま り か え る。

表一

一次面と二次面の距離 \ 二次面の透過性	1 壁的	2 格子的	3 標識的
A 離れている	A - 1	A - 2	A - 3
B 近接している	B - 1	B - 2	B - 3
C 一致している	C - 1	C - 2	C - 3

(中略)

二次面に一次面が接近してくると、両者が同じ割合で表層に参加し、表層を構成する要素が多くなる。

二次面が塀であっても(イ)、主屋が二階建てであれば表層には窓や庇や戸袋や手摺なども見えてきて賑やかである。二次面が生垣や開口の多い塀になれば(ウ)、一次面の表層への参加の程度は増してくる。そしてこの二つのタイプは、東京の低層独立住宅でもっとも多く、またひろく見られるタイプである。

二次面が更に透過性を増し、道路境界の存在を示す程度(エ)になってくると一次面が表層の中心となり表層の複雑さは再び減ってくる。今日の東京では町家形式(注1)の仕舞屋はあまり見かけないが、関西を中心に中部以西のまちではどこでも見かける住居のタイプである。これらの町家の主屋は道に沿って並んでいるが、壁面は縁石や水路で示された道路境界より幾分後退しているのが普通で、頭上に覆いかぶさる庇とともに道と主屋の間にまた別の空間をつくり出している。

(中略)

表一の最下段に示される、主屋が道に接する表層は、東京の、そして恐らく日本の住宅地では一般的なタイプではない。前述したように、道に接すると普通言われている町家型の表層は、よく見ればわずかであっても道との間にもう一つの空間をつくり出している。アラブ文化圏に広く見られる中庭型の住居はオのような表層のタイプをもっている。中庭によって通風や採光が得られるから、道側の壁面に開口を設けなくてもすむ。これまで日本では中庭型が住居の形式として採られることは一般的ではなかつ

た。

道に接する一次面が半透過性（カ）であったり、なかがよく見える（キ）タイプは商店（併用住宅）の表層であって専用住宅にはけっして見られない。それはプライバシーを必要とする専用住宅には不適當であり、店内の商品を通行人に見せる商店に一般的であることは容易にわかる。

（大野秀敏「まちの表層」問題作成上、一部を改変した）

（注1） 町屋 表通りに軒を接して並ぶ商人・職人などの店や住居。間口が狭く奥行きが長い

（注2） 仕舞屋 商家ではない一般住宅

問一 傍線部分(1)「表層の断面」を構成する要素として不適當なものの一つを選び、マークしなさい。解答番号は

- ① 道に沿う住居の並び方
- ② 低い生垣や金網
- ③ 庭で遊ぶ子供の姿
- ④ 住居の道路境界がつくり出す面
- ⑤ 塀越しに路上に覆いかぶさっている樹木

問二 空欄部分ア～キには、表一に示した九つの区分のうちのいずれかが入る。このうち、空欄ア、ウ、キに入るものとして、

最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号はア 、ウ 、キ

- |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | A ー 1 | ② | A ー 2 | ③ | A ー 3 | ④ | B ー 1 | ⑤ | B ー 2 |
| ⑥ | B ー 3 | ⑦ | C ー 1 | ⑧ | C ー 2 | ⑨ | C ー 3 |   |       |

〔本文Ⅱ〕

最近、建築家達の間で有名になり、この本でもしばしば引用される(注3)のローマを、「地と図」という関係において新しい視野のもとで示してくれた。ク、建物を黒く、外部空間である道路とか広場を白くぬり残すことによって、この地図はこの町が何をどのような形態的意図のもとにつくられてきたかを、最も鮮明に描き出している。更に、教会のように常に人々が自由に出入り出来るような、公共の建物のプランは、(注4)外の広場や、道空間と同じく、白く抜き出すことによって、ローマの中での公的領域と、私的な領域がつくり出す構図を、同じ一枚の地図からよみとることが出来るのである。

(中略)

先に例として挙げたように、ローマの地図をみれば、そこには建築物がつくり出す図と、広場・街路のように白図がつくり出す所謂地の部分の二つによってはっきりと都市が構成されていることがわかる。つまり、その特徴の第一は、道路とか広場という公共の領域を形成しているのは、その機能が公共に用されようと、あるいは住居のようにプライヴェイトのものであると、常にその外壁がこうしたパブリックな外部空間の内壁を形成していることである。(注5)勿論十九世紀を中心<sup>もちろん</sup>に発展した欧州の都市の街区の表情をつくる連続住居の内側に、もう一つの広場が形成されたりする場合もあるが、一般的にこの建物面を境界にして、一方において濃密な公共の活動領域と、他方濃密なプライヴェイトの活動領域が、はっきりと区分されている。

(中略)

一方、米国における市街地の視覚的な領域構造については、『街路について』の中で、パリとケンブリッジ(米国マサチューセッツ州)の街区の比較によって指摘されているように、かなり様相を異にしている。先ず第一に、ケンブリッジのように比較的密度が低いところでは、集合住居も道路面から後退させ、その壁面線はパリの(あるいはローマの)それのように、公共の活動領域を視覚的に決定していない。米国の都市構造の一つの特徴として、多くの場合、道路に面する敷地境界線と建物の間は、視覚的には公共領域に属しながら広場のように公共的に使用されることが意図されないプライヴェイトに属する領域が多いことである。

(中略)

「まちの表層」においても分析されているように、日本の町の表層と領域の関係は必ずしも欧米のように明確ではない。

まず第一に、建物の外郭線自体が必ずしも道、<sup>すなわ</sup>即ち公共領域のエッジを構成するものではない場合が多い。比較的建物の密集したところでも、建物の輪郭線ははっきりしていない。そして後に述べるように、建物と建物の間は絶えず路地への出入口によって空隙が生じたりする。更に、住宅地では多くの場合、生垣とか塀によって、公共の領域と私的領域は明確に区分され、先に述べた米国の場合のように、<sup>(3)</sup>視覚的には道空間と一体になるような、<sup>(注5)</sup>闊のない前庭をもつことは極めて稀<sup>まれ</sup>である。

そして、このような住宅地では塀の内側にうえられた樹木等が、歩道、道路まではみ出してきて、それが道を中心とした景觀要素の一部に包みこまれ、同時に、<sup>(4)</sup>建物は瞥見される程度にしか、その表情に参加していない場合がある。従って、領域的には明確に分れていて、<sup>(注5)</sup>ケ外部空間の視覚領域としては、極めてインテグレートされている場合がある。つまり日本の都市では、ノリーの示した「地と図」の概念によって整理しきれない状況を示している。

(横文彦「都市をみる」問題作成上、一部を改変した)

(注3) ノリー イタリアの建築家。一七〇一～一七五六

(注4) プラン 平面図

(注5) 闊 境目

問三 傍線部分(2)「十七世紀のローマ」とあるが、この時代のローマの住宅が示す表層は表一の一次面と二次面の距離の三つの

区分のうち、A、B、Cのどれに属すると考えられるか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

13。

- ① A ② B ③ C

問四 空欄ク、ケに入る語として、最も適当なものをそれぞれ一つ選び、マークしなさい。解答番号はク 、ケ

- ク ① だが ② つまり ③ それゆえ ④ ただし ⑤ むしろ  
ケ ① すなわち ② そのため ③ たとえば ④ もちろん ⑤ しかし

問五 傍線部分(3)「視覚的には道空間と一体になるような、鬨のない前庭をもつ」住宅が示す表層は、表一の二次面の透過性に

関する三つの区分のうち、1から3のどれに属するか。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

- ① 1 ② 2 ③ 3

問六 傍線部分(4)「瞥見」の意味として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は

- ① 盗み見る  
② まじまじと見る  
③ 遠目に見る  
④ ちらりと見る  
⑤ 仰ぎ見る

問七 a～eの特徴の組み合わせである①～⑤のうち、「本文Ⅰ」、「本文Ⅱ」の内容に従うと両立し得ないものを一つ選び、

マークしなさい。解答番号は 。

- ① aとc
- ② bとc
- ③ bとd
- ④ cとe
- ⑤ dとe

- a 私的領域と公共の領域が視覚的に連続している
- b 私的領域と公共の領域の区分が明確である
- c 一次面と二次面の間に距離がある
- d 一次面と二次面が一致している
- e 地図上で建物だけを黒くぬった場合、白くぬり残された領域が公共の領域に対応する